

同じ仲間なのになぜ違う形？ 解答例

—多様な形が生まれた理由を探ろう—

解答欄

サトイモ科に共通する形はこれだ！ 絵や文字で記入しよう。



補足説明

・特徴的な苞は、特に仏炎苞と呼ばれ、受粉のための昆虫などをおびき寄せたり、訪れた昆虫を閉じ込めて肉穂花序の下方にある花へ誘い込んだりするなど、種によって色や形が様々に進化している。ショクダイオオコンニャクでは直径1.5mにもなる。

サトイモ科のほとんどの種が仏炎苞を持つが、原始的な属であるオロンチウム属(筑波実験植物園中央広場)では、花序の基部に小さく付いているのみであり、水生植物のミジンコウキクサでは苞を持たない。

・花以外には明確な共通形態はないが、単子葉植物でありながら、葉脈は平行脈にかぎらず網状になるものがあり、葉形も切れ込みが入ったり、複葉になったりするものがあることも特徴の1つである。これらの特徴は、単子葉植物の中で原始的な位置にあることを示していると考えられる。